

(別記)

## 2019 年度玉東町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

熊本県の北部、玉名郡の東南端に位置し、東部は熊本市北区植木町に、西は玉名市、南は吉次峠、三ノ岳を経て熊本市西区河内町、玉名市天水町に隣接し、金峰山麓オレンジベルト地帯の一角を占め、柑橘類を中心とした農業生産を展開している。中・北部の比較的平坦な地域では水田が開け、水稻・施設園芸の複合経営による農業生産を行っている。全耕地面積に占める主食用米面積の割合が約 63%である。また、水稻以外の土地利用型作物としては、主に麦・大豆の生産が中心となっている。

近年は、農業者の高齢化及び新規就農者の減少等により、担い手不足が深刻化しつつあり、水田における麦・大豆及び園芸作物の生産が拡大されず、将来に向けての計画的・安定的な水田農業経営が確立されていない現状にある。また、一部の規模拡大農家はあるが大半が個別零細経営であり、農地の資産的保有傾向が強く、安定兼業農家から規模拡大志向農家への農地の流動化は、これまであまり進展をみないまま推移してきている。

その他、J R 木葉駅周辺の開発が進み近隣市町村のベッドタウンとなっており、食の安全志向への関心が高まってきており、地産地消の取組への要望が強まっている。

### 2 作物ごとの取組方針等

町内の 230ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、集落営農による大豆、イチゴ・なす・トマト・スナップエンドウを重点的な推進作物に位置付け、作物生産を推進する。また、地産地消への取組として直売用小物野菜の作付け及び販売を推進する。その他、平成 28 年度まで県及び国の交付金制度であった団地化と担い手への集積推進、二毛作（麦・大豆・飼料作物）の推進も引き続き行っていく。さらに、新たな高収益作物の産地化を模索していく。

#### (1) 主食用米

消費者ニーズによる安全安心な食と生活を提供するため、同一栽培方法による米づくりの取組や、残留農薬検査体制、生産履歴（トレーサビリティ）の条件を整備し、高付加価値化を図り需要に適した「売れる米づくり」に取り組む。

#### (2) 麦、大豆、飼料作物

高齢化等により担い手の減少が懸念されるため、土地利用型農業を担う認定農業者や地域営農組織等の育成・確保を図る。また、効率的で安定的な経営を実現するため、特に大豆・麦では産地交付金を活用し、団地化や二毛作、農地の集積を行い水田の有効活用等を図る。

さらに、生産拡大を行うにあたり、現状の所有機械では能力が不足するため、担い手を対象とした機械導入による生産条件整備により、省力・低コスト生産体制の強化

に取り組む。

飼料作物については、イタリアンライグラス等の水田裏作等を中心に、耕種側と畜産側が協力できる仕組みづくりを支援し飼料の効率的かつ高品質な生産・利用を進めます。

### (3) そば、なたね

水対策に取り組むとともに地域の実需者との契約に基づき、推進を行う。

### (4) 高収益作物（園芸作物等）

当地域で水田に作付される野菜の中でも、特に、「イチゴ・なす・トマト・スナップエンドウ」を振興作物の重点品目として、作付拡大を図る。

また、その他の野菜や花きなどの地域振興作物についても、産地交付金を活用し作付面積の維持を図るとともに、当地域で水田に作付けされる野菜の中で、農産品直売所への出荷を目的として栽培される野菜について、産地交付金を活用し地産地消の推進として作付面積の拡大を図る。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	148ha 735 t	150ha 750 t	150ha 750 t
飼料用米	0	0	0
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0
WCS用稲	0	0	0
加工用米	0	0	0
備蓄米	0	0	0
麦	37.6	38.0	42.0
大豆	12.7	18.0	18.0
飼料作物	18.4	21.0	24.0
そば	0	0	0
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	17.4	18.3	18.9
野菜	7.3	8.2	8.8
重点品目	・イチゴ	1.9	1.9
	・ナス	0.3	0.4
	・トマト	0.3	0.3
	・スナップエンドウ	0	0.1
重点品目以外	4.8	5.5	5.7
花き・花木	0.1	0.1	0.1
その他作物	10.0	10.0	10.0

※主食用米の目標値（2019、2020年度）において使用した単収は 500kg/10a

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
				2018 年度	2020 年度
1	イチゴ	重点品目への助成	重点品目の作付面積	1.9ha	(2.5ha) 1.9ha
	ナス			0.3ha	(1.0ha) 0.7ha
	トマト			0.3ha	(0.8ha) 0.3ha
	スナップエンドウ			0ha	0.2ha
2	大豆 (基幹・二毛作)	団地化加算	作付面積	8.1ha	8.5ha
			反収	62.8 kg/10a	120kg/10a
3	大豆・麦 (基幹)	担い手加算	大豆反収の向上	大豆 60.2kg/10a	大豆 120kg/10a
			麦反収の向上	麦 292.7kg/10a	麦 320kg/10a
			水田面積に占める担 い手の作付面積	12.3ha	24.4ha
4	麦・加工用米・ 飼料作物 (二毛作)	二毛作助成	二毛作の取組面積	54.2ha	63ha
			水田利用率	138.9%	145%
5	野菜（1の野菜を 除く）、花き・花木、 その他作物(基幹)	地域振興作物への 助成	作付面積	13.2ha	(18.1ha) 15.8ha
6	野菜	地産地消への助成	取組面積	0.8ha	(1.0ha) 1.5ha
			町内直売所の農産品 販売額	76万円	200万円
7	野菜	新規導入作物助成	取組面積の増加	0.7ha	2ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。（目標値の上段括弧書きは変更前の数字。）